

京都コースからの7がみ



2024年11月発行
第87号

〒607-8218 京都市山科区勸修寺御所内町64-3
深草こどもの家 勸修寺園舎
TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588
メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

二〇二四年度 京都モンテッソーリ教師養成コース主催 モンテッソーリ教育講習会 特別講演 「非認知能力を育む保育・教育…発達心理学の視点から」

京都教育大学 教授 田爪 宏二

「非認知能力」とは

「非認知能力 (non-cognitive skills)」とは、幼児期への教育的投資の重要性を主張した教育経済学者のヘックマン (Heckman, J.) が、主体的に環境に向き合うことを重視した質の高い幼児教育によって育まれる能力として提唱した言葉です。OECD (経済協力開発機構) が提唱する「社会情動的スキル (Social and Emotional Skills)」もほぼ同様のものであると考えられます。

教育・保育の場面において認知能力と呼ばれるものは、主に経験や学習の結果獲得された知識や技能のことで、身につけていることがわかりやすい (テストなどによって評価しやすい) 能力です。これに対して非認知能力とは、好奇心や粘り強さ、気持ちを切り替える力、他者と関わる力などを指します。このような力は、いわば知識や技能を主体的かつ適切に学ぶために必要な力ですが、知識や技能のように身につけているかどうかはわかりにくい能力です。

学習指導要領においては、教育・保育の場面における非認知能力を「学びに向かう力、人間性等」としており、「知識・技能」や「思考・判断・表現」といった認知能力とともに教育の中で育む

べき力として重視されています。

遊びの中で捉える非認知能力と認知能力の一体的な育ち

「よく学び、よく遊べ」という諺があります。これは、子どもがよりよく成長、発達するために「学び (勉強) も遊びも、両方大事である」という意味であることは知られていますが、その背景には学びと遊びは別である、という考え方があります。確かに小学校以上の教育では両者は区別されますが、幼児期においては両者は非常に近い関係にあります。いわば幼児期においては「よく遊び、よく学ぶ」、つまり豊かな遊びの経験が豊かな学びに繋がる、と考えることができます。そして、その機会を保証することが幼児教育・保育の重要な役割であると考えられます。

遊びによって育まれる能力には、認知能力と非認知能力の両方が含まれます。遊びを通じた非認知能力と認知能力の一体的な成長について、「じゃんけん遊び」を例に考えてみます。じゃんけん遊びが成立するためには、協調性や勝ち負けに対する感情の調整などが必要で、これが非認知能力に当たります。さらに、言語能力、ルールや

勝ち負けの理解は認知能力であると言えます。これらの能力が備わることによって子どもはじゃんけん遊びに興味を持って熱心に取組むようになります。他方で、じゃんけん遊びを行うことが先に挙げた非認知能力、認知能力の育ちにも繋がります。つまり、遊びと非認知能力、認知能力の育ちとは相互の関係にあると言えます。

非認知能力の基盤：自己調整力、動機づけ

教育・保育の場面における非認知能力である「学びに向かう力」のうち、特に学習に焦点を当てたものとして「自己調整力」と「動機づけ」が挙げられます。

自己調整力とは、さまざまな状況において、主体的かつ適応的に問題を解決するために必要な力です。幼児期では、生活や遊びの中における自己主張（自己表現力：自分の考えを自発的に表現できる力）、自己抑制（長期的な見方、相手の立場に立つて考え、自分の欲求を抑える力）の能力が該当します。それらの力が発揮される遊びの中で、自分が主体的に問題を解決する能力のある存在であるという感覚（自己効力感）が獲得されます。そして児童期以降では、学習場面の中で自己調整学習、すなわち自らの学びのプロセスを自覚し、主体的に学習することができる力へと繋がります。

もう一つの重要な要素である動機づけについては、興味や楽しさに基づく内発的な動機づけは、自己調整力のエネルギー源になると考えられます。幼児期の遊びは、内発的に動機づけられた活動であり、幼児教育・保育においてはそれを促す

環境の提供や支援が重要であると言えます。但し、保育者が必要以上に手を出しすぎると、子どもの中に「やらされている」という感情が生じてしまい、遊びに対する動機づけや自己調整力が低下してしまうことがあります（アンダーマイニング効果）。また、対処が難しい環境の中で失敗経験を重ねてしまうことで動機づけや自己調整力が低下すること（学習性無力感）も懸念されます。子どもが興味を持って主体的に取組み、成功経験を得ることができる環境を整えることも、幼児教育・保育の重要な役割であると思われれます。

なお、小学校の中盤以降の学習では、学びに対して内発的な動機づけを維持することが難しくなっていくため、学習の価値や重要性を伝えるなどして、学習に主体的に取り組むことができるような支援が必要とされています。その際、幼児期から自己調整力や動機づけなどの非認知能力が育まれてきた子どもは、困難な学習課題に対しても粘り強く取組むことができると考えられています。

まとめ：非認知能力の育成と幼児教育・保育

改めて、昨今幼児教育・保育と非認知能力との関係が注目されている理由として、主に次の二点を挙げる事ができます。第一には幼児期が非認知能力の発達にとって重要な時期であることです。そして第二にはこれまで培われてきた幼児教育・保育の理念や技法の中に非認知能力、認知能力を一体的に育むための多くの示唆が含まれているということです。

特に幼児期の遊びは、認知能力と非認知能力

をバランスよく育てる経験であり、またそれが児童期の学びに繋がることも重要な点です。幼児期の終盤から児童期のはじめは「架け橋期」と呼ばれ、そこにおいては幼児期の遊びを通じた豊かな経験（学びの芽生え）が児童期の教科学習を中心とした自覚的な学びにつながっていくための教育的支援が求められていると言えます。但し、幼児期を児童期の準備期間と考え、児童期に必要な事柄を幼児教育の中で先取りしようとする事は早計であると思われれます。むしろ、幼児期を幼児らしく充実して過ごすことが児童期へのスムーズな移行、そしてその後の生涯を通じた学びに繋がっていくと考える必要があるといえるでしょう。

最後に、モンテッソーリ教育と非認知能力との関係について触れておきたいと思えます。モンテッソーリ教育の特色のひとつに、「自己教育力を育む」ことが挙げられます。自己教育力とは自立発達していくこうとする力であると考えられ、非認知能力としての自己調整力、動機づけにも相通じるものであると考えられます。また、モンテッソーリ教育において重視されている「子どもを観察し、環境を整える教育」も、非認知能力の育成にとって重要な要素であると思われれます。幼児期における認知能力、非認知能力の発達は、子どもの主体的な活動によって促されるとともに、保育者が子どもをどの能力をどのように捉えて環境を提供するかによっても左右されることが想定されています。この点からも、子どもの観察や環境構成を重視するモンテッソーリ教育は、非認知能力の育成において多くの示唆を含むものであると考えられます。

見学実習園紹介

.....
小さな灯をともし続けて

高田カトリック幼稚園 (奈良)

友井 桂子

高田カトリック幼稚園は、一九六三年、戦争で傷ついた日豪両国の人々の間に許しと和解、憎しみではなく愛を届ける架け橋となる為に、オーストラリアから渡日したカトリック・マリスタ修道会の若き司祭方により設立されました。

開園当初よりマリスタ修道会の司祭達が園長を務めておりましたが、日々の保育は聖母カテキスタ会、シャルトル聖パウロ修道会、汚れなきマリア修道会のカテキスタやシスター方が、代々主任となつて園の保育を担つてくださっていました。その後シスターが園長を務められた後、二十九年前から信徒が園長となつて現在に至っています。

設立当初は年齢別の一斉保育を行っていましたが、赤羽恵子先生がドイツから帰園され東京で開かれた講習会に、「この教育は学ぶべき」という初代園長ポール・グリーン神父の薦めで先生達が参加し、少しずつ学びを始めていったそうです。

当時はまだ教具もありませんでしたから、保護者の協力を得て、手作りで教材・教具を作り保育の中で使用していたのだと聞いてい



ます。例えば、ボタンの製造をしている保護者からたくさんボタンを載せて、ビーズの代わりや赤い玉の代わりにしたり、大工さんの保護者の方には角材を寸法通りに切ってもらい、先生達がペンキを塗って手作りの赤と青の数棒を作ったと聞かれています。倉庫にまだその棒が大切にしまっていました。教具棚も手作りで、今でもまだ使っている棚もあります。

京都コースが開かれると、すぐにコースへ勉強に行き、コースで学んできた先生を中心に年齢別の保育の中に、モンテッソーリ教育を取り入れていったそうです。少しずつ教具も揃い、一九八〇年から縦割りクラスとなりました。

ずっとモンテッソーリ教育を取り入れてきましたが、その時々色々な課題もありました。学びに行くコースを変えた時期もあり、学んだコースが違っていると、紹介の仕方が少し違うということが問題で、園内ではどのように紹介するのかと戸惑いながら保育したと聞いています。コースで学んだ先生が少ない時は、コースで学んだ先生を中心に園内研修をしてはいましたが、やはりコースに行っていない

先生達は、自信がない様子でした。モンテッソーリ教育の本質が分からないまま、見よう見まねで続けているという感じでした。

そこで、仕事をしながらでも学びが続けられる、最初に先輩方が学んでこられた京都コースで、一人また一人と毎年勉強してもらうことを続けていきました。京都コースで学んだ先生が一人また一人と増えていき、同じ思いを共有できるようになっていきました。

けれど今度は、コースで学んだけれど、すべてを自園では実践できない、実践できないという悩みを、大なり小なり持っていたように思います。

行事には、先輩の先生方が積み上げてこられた形、以前からの慣例があり、保護者や地域からの期待などを考えると、なかなかそれを変えるということができませんでした。

同時に子どもが自由にお仕事を選んでする時間、横割り活動の時間、行事のための準備や練習の時間をどのようにするのかということがずっと課題で、試行錯誤するのですがなかなか前へ進むことができませんでした。

子ども達の姿を間近に見て、自分達の保育を振り返り、子ども達が自分の意思を使って選び活動するということを大事にしたいという思いが、先生達の中に沸々と表れ、やっと今年から、時間の使い方や内容を変えていくと動き出したところです。

今まで先生達が、丁寧に子どもに関わり、子どもの姿を保護者に伝えてきたことで、たっぷりな時間の中で、子ども達が自分の意志を

使つて遊び、取り組み、自分自身を育てるための時間を、毎日の変わらない生活を大切にしたいという思いを、保護者の方も温かく理解を示してください、取り組み始めたところ
です。

今までは、朝の自由選択活動の途中に学年別の横割り活動が入るといった形で、たつぷりと朝の時間を自分のお仕事の時間として使うことができていませんでした。横割り活動を午後にもつていき、基本、午前中は自由選択活動ができるようにし、午後に学年別の活動の時間を持つようにしました。幼稚園ですから、午後二時が降園時間です。今までと同じボリウームの横割り活動をする時間は、午後にはとれません。横割り活動の内容を吟味する必要も出てきました。また行事の準備、練習の時間や内容も今まで通りにはいきません。どのようにしていくか、時には熱くなりながら、話し合い、手探りで子どもにとつて本当によい生活のできる保育の実践をと、もう一度初心に戻つて取り組み始めています。

六十一年の間、カトリックの精神を基に、モンテッソーリ教育を学びながら、保育を行つてきました。まだまだ奥の深い保育の世界ですが、モンテッソーリ教育を通して子ども達の成長を支え、お互いがあるのままを受け入れて、認め合う関係性を築き、子ども自身が愛される存在であることを感じながら過ごすことのできる幼稚園でありたいと、マリスタの司祭達が灯された火を奈良の片隅で小さくても灯し続けていきたいと思っています。

モンテッソーリ園紹介

『富坂子どもの家』を訪問して

深草こどもの家

根岸 美奈子

大都会のど真ん中。地下鉄後楽園駅から徒歩七〜八分。「富坂子どもの家」はビルや住宅のたち並ぶ静かな中にありました。

ここは発達に課題のある0歳〜六歳のお子さんを通う児童発達支援事業所です。この日は三歳〜六歳の七名のお子さんと、三名の保育士です。玄関で保護者の方とサヨナラをして室内に入ります。先生にうながされて、荷物の整理と出席シールを貼っています。

時計の本をかかえてきて、訪問者の私に一生懸命に説明してくれる子。恐竜のフィギュアを机の上にたくさん並べて一時間くらい遊んでいる子。小さい花瓶に水を入れて花を活けている子。(水道で水をくんで運んできます)

同じ立体を部屋の中から探して集めている子(この時は円柱さがしでした)その日が登園二日目の外国籍のお子さんは、日本語があまり通じないこともあつて、走りまわったり、大声がでてしまつたりしています。でも先生も他の子どもたちも動じることなく、それぞれの活動を黙々としていました。その環境と子どもたちの姿は健常児だけがいるモンテッソーリ園のクラスと変わらず、むしろそれ以上の姿に驚きの連続でした。

子どもたちに教具を誘う時、子どもが意思



表示できるように写真カードをみせて、「これする?」と聞いて、子どもが納得した上で活動をしています。

保育室からベランダへ、そして園庭へ。自然の流れで外で遊びはじめました。十〜二十名くらいの子どものたちが遊ぶには十分の広さと自然たつぷりの園庭です。まっ平(たいら)ではなく、小さい丘を登ったり、降りたり、とび石があつたり、大木の下の丈の低い樹木の影にかくれたり、そんな庭のつくり、そのへんの保育園は負けてしまうようと思いません。

この子たちは九時四十五分から一時までの保育時間ですので、お弁当を食べて、あつまりをして、お迎えを待ちます。

時々思い通りにならなくて泣いてひっくり返つたりする子(健常児でもいますね)もいますが、とにかく自分の力で生活しているという満足感あふれる姿に感銘いたしました。自由で幸せな生活を保障してあげている先生方には頭が下がる思いです。

この施設長の勝間田万喜先生は、ドイツ(ミュンヘン)でモンテッソーリの治療教育を学び、帰国後、深草こどもの家の職員として働きながら京都コースを卒業されました。東京うめだ「子供の家」、うめだ・あけぼの学園を経て、現在に至っています。

たくさんのお教を、ありがとうございました。

京都コース／深草こどもの家 学校法人化プロジェクト 進捗状況のお知らせ

私共の学校法人化プロジェクトをお支え下さっている、卒業生の皆様、卒園生の皆様、全国のモンテッソーリ教育関係者の皆様、モンテッソーリ教育を推奨してくださっている方々へ心より感謝申し上げます。

2024年11月現在の学校法人化プロジェクト進捗状況をお知らせします。

- * 2024年11月末日までの寄付総額は53,828,973円となりました。
- * 公益財団法人京都地域創造基金での寄付募集期間を2026年3月末日まで延長しています。
- * 学校法人化プロジェクトを関係者以外のもっと多くの方々に知って頂くために、プロジェクト動画制作を始めました。深草こどもの家、京都コース、赤羽先生の教え子が運営する全国のモンテッソーリ教育実践園を訪ね、インタビューを短い動画にまとめ、このプロジェクトの意義が伝わるような動画制作になるように専門家に入っていました。完成しましたら改めてお知らせいたします。
- * 11月中旬に京都府文教課へ参りました。深草こどもの家園長／京都コース委員長の根岸美奈子、深草こどもの家主任の長谷川美枝子、学校法人化事務局長の杉山史哲さん、園舎建築を手掛けてくださる建築士の中村篤史さんと共に京都府文教課にて改めて協議内容を確認し、学校法人設立までに必要な準備について確認してまいりました。

市街化調整区域内という、法律の縛りがある土地のため難題が多くありますが、開かれた学校法人化への道を一步一步着実に進んでまいります。このプロジェクトを伴走して下さっているすべての方々に感謝を申し上げますとともに、引き続き応援をどうかよろしくお願い申し上げます。

又、学校法人化プロジェクトにつきましてのご意見、ご質問がございましたらお知らせいただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

学校法人設立準備会代表 根岸 美奈子

Email : mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

2024年度日本モンテッソーリ協会近畿支部研修会のご案内

今年も対面での開催といたします。実際にお会いして話し合い、モンテッソーリ教育実践の情報・意見交換をしていただき、近畿支部のみなさまに同じ志をもつ仲間がたくさんできることを願っています。

日 時：2025年1月13日（月祝）10時～16時

会 場：奈良カトリック幼稚園 奈良市登大路町36-1（近鉄奈良駅下車徒歩3分）

会 費：一人1,000円

『モンテッソーリ治療教育の可能性』

ー こどもたち（支援が必要なこどもたちも含む）への学びの提案 ー

講師：立野 由美子 先生

（AMI公認 国際モンテッソーリ治療教師、国際こども学フォーラム事務局 代表）

FAX又はメールにてお申し込みください。

申込期限 12月12日（木）尚、研修当日でも受付いたします。

*近畿支部事務局 奈良カトリック幼稚園 〒630-8213 奈良市登大路町36-1

FAX：0742-26-3261

MAIL：info@naracatholic-youchien.jp

TEL：0742-22-4089



友好学園

「こどもの家」集団便り

（京都コースで研究開発された教材の販売部）



●出席カード

赤羽恵子考案のこどものための出席カード。

きのう、きょう、あした、というつながりがよくわかり、ひと月、一年の長さも体感できる、時の概念を子どもへ知らせる素晴らしい歴史の教具の一つです。

この出席カードから

⇒ 変えてみませんか

12がつ

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

12月

1	2	3	4	5	6	29	30	31
日	月	火	水	木	金	日	月	火
			クリスマス					

シール

メモ

●幼児用機織り

全園児分の機織り台をそろそろ揃えてみませんか？

幼児用機織りを最も喜んで行う年齢は4歳～5歳。

こどもによって織り上げる進度は異なります。

それぞれの子どもが自分のペースで織ることができるように

するためには、ひとり一台の機織り台が必要です。



ご注文は FAX：075-645-4181 でお願ひします。

注文先・発送部：〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町2-4 URL：www.montessorimaterial.jp



だより

今年もあとわずかとなりました。皆様も充実したお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。夏の講習会では、皆様とお会いでき、とても嬉しい夏となりました。また、当日の総会では、わかば会会長の交代について、皆様にご承認を頂きました。総会にご参加くださった皆様に御礼申し上げます。新会長は、愛媛県ロザリオ学園海の星幼稚園園長の上田礼子先生がお受けくださいました。長い間、滋賀カトリック学園の園長で引き継いで参りましたが、新しく愛媛からの風を皆様に向けてくださることを願います。

コロナ禍以降のここ数年、感じていることは、会費の徴収の件です。会費から、『コースからの手紙』の配布時の補助や『自由を子どもに』の配布(今回は二〇二三年まで納めてくださっている方対象)、また『夏の講習会』の会員の方の補助などに使わせて頂いております。会費の徴収が滞ることにより、これらの補助が難しい状況になることが予測されます。会員の皆様には、会費の納入をお願いいたします。今回、振り込み用紙を同封して頂きましたので、ご協力をお願いいたします。

行き届かない点が多々ある中、会員の皆様にご協力頂き、また時には温かいお言葉やお手紙を頂き、心より感謝申し上げます。これからも、わかば会をお支えくださいますようお願い申し上げます。ありがとうございます。

滋賀カトリック学園 聖母幼稚園

園長 井上 美幸

園庭の木々が少しずつ色づき、秋の深まりを感じるようになりました。実りの秋。

わかば会の皆様も日々子どもの育ちを感じながら、充実した毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、この度、滋賀カトリック学園聖母幼稚園の井上美幸先生より、わかば会の会長職を引き継がせていただきましたロザリオ学園の上田礼子と申します。井上先生をはじめ、滋賀カトリック学園の皆様におかれましては二十年もの長きにわたり、会費や会員名簿の管理や、コース卒業生の学びの場であります夏の研修会のご準備、ご対応等わかば会のお世話をしていただきました。いつも先生方の心のもつたお心遣いに参加者として感じながら温かな気持ちになっておりました。特に昨年のコース創立五十周年のふしめの年には、祝賀会を主催いただき、楽しく、素敵な時間を過ごせましたことが、本当に良い思い出となっております。先生方のこれまでのご苦勞に改めまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。この大きなバトンを受け取りました当学園は、四国は愛媛の地にあり、八つの幼稚園からなる学園です。海を渡り遠くの地からのお役目となり、行き届かない点も多々あるかと存じますが、皆様の力をお借りしながら、ロザリオ学園の教員と力を合わせて務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

ロザリオ学園 海の星幼稚園 (愛媛)

園長 上田 礼子

◆会費納入について

わかば会会長は、滋賀カトリック学園の井上美幸先生からロザリオ学園の上田礼子先生に変わります。滋賀カトリック学園の先生方、長い間ありがとうございました。ロザリオ学園の方々、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎振込先

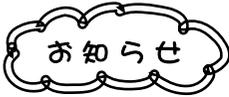
02 東京 00150-9-82053
京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費:

1,500 円
※ 長期滞納の方は再入会金 1,000円と
2023年、2024年の2年分 3,000円
計 4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 上田 礼子 (海の星幼稚園)
〒791-8076 愛媛県松山市会津町 6-1
TEL : 089-951-1717
FAX : 089-952-5766
メール : uminohoshiencho@blue.ocn.ne.jp



○編入試験

各地方会場での基礎コースを修了された方を対象に、
 専門コース2年次への編入試験を下記の通り行います。
 日時：2025年2月22日(土) 9:00～16:00
 ※受験者の人数によって、終了時刻は変わります。
 ※切日以降にお問い合わせ下さい。
 場所：京都 深草こどもの家 勸修寺園舎
 申込締め切り：2025年2月2日(月)まで
 ※申込書は事務局までご請求下さい。

○2025年度募集要項

京都モンテッソーリ教師養成コースの
 2025年度募集要項ができました。
 お知り合いの方々にご紹介下さい。
 また、宛先をお知らせいただければ直接
 郵送いたします。ホームページでもお
 知らせしています。願書の用紙もダウン
 ロードしていただけます。



京都モンテッソーリ教師養成コース主催 2025年 モンテッソーリ教育 夏期講習会

日 時：2025年7月26日(土)・27日(日) 場 所：KoKoKa 京都市国際交流会館
 *来年の夏も皆様と一緒に学び合いましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

聴講のお誘い

(1) 京都コース卒業生の皆様

基礎コース・専門コースの授業をもう一度受けてみませんか?卒業されてから間もない方、何十年も経った方、どなたでも歓迎します。新たな発見や学びがたくさんあると思います。聴講料は、1日3,000円です。JAM及びAMIのディプロマをお持ちの方も、1日3,000円で聴講できます。

(2) はじめての方へ

基礎コースの他、専門コースの授業も聴講することができます。ただし、(生活・感覚・言語・数)教育の授業のうち専門1年目のそれぞれ第1回目の授業に限ります。基礎コースの会場では第I課程のみになります。聴講料は1日10,000円です。

※聴講ご希望の方は事前に京都コース事務局まで、電話またはFAXでお申し込み下さい。

■2025年度 基礎コース日程表 (在籍者は、下記のどの会場でも何回でも受講できます。)

会場 内容	福 岡	会 場 内 容	東 京	会 場 内 容	札 幌
生活教育 I	4月 19日・20日	言語教育 I	4月 19日・20日	生活教育 I	8月 3日・ 4日
感覚教育 I	5月 17日・18日	生活教育 I	5月 17日・18日	感覚教育 I	8月 5日・ 6日
数 教 育 I	6月 21日・22日	感覚教育 I	6月 21日・22日	言語教育 I	8月 7日・ 8日
言語教育 I	7月 5日・ 6日	数 教 育 I	7月 5日・ 6日	数 教 育 I	8月 9日・10日
生活教育 II	9月 6日・ 7日	言語教育 II	9月 6日・ 7日	感覚教育 II	8月 3日・ 4日
感覚教育 II	10月 18日・19日	生活教育 II	10月 18日・19日	生活教育 II	8月 5日・ 6日
数 教 育 II	11月 15日・16日	感覚教育 II	11月 15日・16日	数 教 育 II	8月 7日・ 8日
言語教育 II	12月 6日・ 7日	数 教 育 II	12月 6日・ 7日	言語教育 II	8月 9日・10日
土曜日 14:00～18:00 日曜日 9:00～16:00 (土・日)を1回として年8回				全課程 9:00～16:00	

◎第I過程は、幼稚園教諭・保育士資格のある方はどなたでも聴講できます。

※聴講料は、1日10,000円です。(基礎コース修了者及び専門コース卒業生は、1日3,000円です。)

※聴講希望者は、事前に京都コース事務局まで電話またはFAXでお申し込み下さい。